南洋群島の蠍*

江崎悌三

九州帝國大學農學部昆蟲學教室

我が統治下にある南洋群島，所謂內南洋はミクロネシアの名が示す如く，極めて小さい島嶼ばかりから出來てゐるので，その動物相も亦概して貧弱である。蠍目の動物も亦この例に洩れず，僅かに二種を見るのみで，而もそれ等は極めて分布の廣い，又本邦南部即ち琉球，臺灣にも產するものなので，何等附記して興味を惹くに足るものはない。次に記すものは南洋群島の蠍類の既往文獻による知見と筆者の觀察とを要約したものである。

1 *Isometrus europaeus* Linné

=*Isometrus maculatus* De Geer

マダラサソリ

從來學名と共に本種の記錄された島々は次の如くである。

マリアナ群島(Prowazek, 1913, p. 91) これはサイパンでの觀察と思はれる。

同群島サイパン (Saipan) (Schnee, 1911, p. 160；稻垣, 1936, p. 210)

パラオ群島コロール (Korror) (江崎, 1939, p. 245)

カロリン群島クサイ (Kusaie) (江崎, 1939, p. 245)

マーシャル群島ヤルート (Jaluit) (Karsch, 1881, p. 15；Schnee, 1904, p. 406)

以上の外，手許にカロリン群島トラック夏島(原田正夫氏採集)，及び春島(生田茂氏採集)，更にパラオ群島ペリリュー島 (長速政氏採集) にて採集された標本がある。

2 *Hormurus australasiae* Fabricius

ヤヘヤマサソリ

マリアナ群島 (Kraepelin, 1901, p. 272；Prowazek, 1913, p. 91)

前者はグアム(Guam) 又はサイパン，後者はサイパンでの採品又は觀察と

---

* 江崎教授1936-1940年ミクロネシア探檢報告，No. 71

思はれる。

同群島サイパン及びロタ (Rota) (江崎, 1939, p. 245)

パラオ群島バベルダオブ(Babeldaob) 及びペリリュー(Peliliou)(江崎, 1939, p. 245)

カロリン群島トラック (Truk), ポナペ (Ponape) 及びクサイ (江崎, 1939, p. 245)

マーシャル群島ヤルート (Karsch, 1881, p. 15; 江崎, 1939, p. 245)

以上の外マリアナ群島パガン (Pagan) (安松京三氏採集), パラオ群島西南の孤島トコベイ (Tokobe) (村上子郎氏採集) の標本が手許にある。

以上の外種名を明記せず, 單に蝎(scorpion)又は他の學名を以て記されたものを列擧して見ると:

マリアナ群島グアム (Safford, 1905, p. 94)

カロリン群島ヤップ (Salesius, 1906, p. 25); ポナペ (Christian, 1899, p. 361; 堀井, 1916, p. 251)

以上の中 Christian のポナペ島の記事には "a small sandy-hued scorpion" とあるのでマダラサソリと見做してよろしかるべく, 堀井氏は"*Buthus* sp. ?" としてゐるが, 孰れに當るか不明, 恐らくヤヘヤマサソリであつたらうと思はれる。

其他各島の語彙を集めたものの中に蝎に相當する語の存することにより, その島に蝎の産することを間接的に知り得るものがあるが, 之等は一應省略することとした。

扨以上の分布狀態から見て, この二種の蝎は我が南洋群島に廣く分布し, 精査することが出來れば恐らく全群島に發見されるものと見てよからうと思ふ。この兩種の棲息狀態は琉球や臺灣に於けると同樣で 兩者の間に著しい差異がある。即ちマダラサソリは主に家屋內や野外でも比較的乾燥した場所に棲み, 屢々寢具や家具の間に出て來て人を害することがあるが, ヤヘヤマサソリは野外に棲み, 石の下, 樹皮の下に普通に見られ, 又ココ椰子の葉腋部にも極めて屢々發見される。前者は偶然の機會に發見されるのみで, 採集は稍々困難であるが, 稀に室內に匍ひ出して來ることもある。後者はその棲息場所の見當をつけて探索すれば, 容易に多數採集することが出來る。

私はこの兩種を臺灣や琉球の兩種と十分比較出來る程の多數の標本を所持し

てゐない。兩產地のものが夫々同種であることは確實であるが，亞種又は型に就いては未だ兩地方の兩種に就いて何とも言ふことが出來ない。一見して氣のついた唯一の顯著な事實はパラオ群島に見られるヤヘヤマサソリには屢々臺灣等のものより遙かに頑强な大形なものがあり，ペリリュー島で得た一箇體では體長（尾狀の後腹部を除き）30mm，後腹部が 22mm に達する。

各群島各島での地方名を次に列擧して見よう。島民は上記2種を識別せず，從つて次の名稱は蝎全般に通ずるものである。尙外來語の scorpion 又はその轉訛が相當廣く普及してゐるのは注目に値する。

マリアナ群島（チャモロ語）alacrán（江崎採集，Callistusan），alakr（Fritz）；escorpion（Callistus）．上記の2語は共にスペイン語である。

ヤップ島 ping aol，ouol ni bipin（江崎採集）"女の蜈蚣"の意，その螫害が蜈蚣の咬害程酷くないのによる。

パラオ群島 iusbelú（江崎採集），iús kelú（Walleser），ius l pelú（Krämer）"陸の鰐"の意，鰐は我が南洋群島中パラオ群島に產するのみ。

トラック島 nikukuken（江崎採集）

ポナペ島 iki-mang，ikimuang（Christian），iki mañ（Hambruch）"枝狀の尾"の意；sukupion（江崎採集）。Christian によるとサモア群島マウア島では iumanga，又同群島ウポル島では mongamonga-iu-manga と言ひ，蜈蚣をも同じ稱呼にて呼び，ポナペ島のと同源の語であると言ふ。

クサイ島 skorpion（江崎採集）

マーシャル群島 merebep（江崎採集）

蝎の毒は世俗には誇大視されてゐる。實際に致命的な猛毒を有する種類は世界に數種あるのみで，この二種の蝎の如きはその螫害極めて輕微であることは，琉球や臺灣でも知られて居り，南洋群島でも Christian，Safford 等が明言して居り，又サイパンに於ける Schnee（1911）の記錄は醫學的に權威ある報告で，彼は"余は無害と言ふも差支なしと思ふ種を產するのみ"と言ひ，同島でマダラサソリは日中は古箱や便所等の暗所に隱れ，皮下脂肪の多い所を螫されたのでは大したことはなく，ある一例では紙の間に隱れてゐたものに肛門を螫され，激しい疼痛と腫症が見られた。指を螫されたものでは蜜蜂に螫された程も痛くない。手當も溫湯で濕布するのみで十分で，痛みは直きに去ると言ふ。私は採集の際いつもピンセットを用ひるので，未だどの種にも螫された經驗を

持たないが いろいろな例を綜合して見ると，ヤヘヤマサソリの方がマダラサソリよりは一層害が輕い様に思はれる。ヤヘヤマサソリは島民が平氣で手づかみにするのを何遍も見た。

引用文獻

Callistus, P. 1910—Chamorro Wörterbuch, Hongkong.

Christian, F. W. 1899—The Caroline Islands, Travel in the Sea of the Little Islands, London.

江崎悌三 1939—委任統治南洋群島に於ける人體の害蟲（第1報）吉田博士祝賀記念誌, p. 230-252.

江崎悌三, 村上子郎 1939—パラオ群島の動物名（二）. 科學南洋 vol. 2, no. 1, p. 9-15.

Fritz, G. 1908—Chamorro-Wörterbuch, Berlin. (Archiv für das Studium deutscher Kolonialsprachen, Bd. 2)

Hambruch, P. 1932—Übersicht der auf Ponape vorkommenden Tiere. Thilenius' Ergebnisse der Südsee-Expedition 1908-1910, II. Ethnographie, B. Mikronesien, Bd. 7, Ponape, 1. Teilband, p. 357-359.

堀井榮吉 1916—新領土南洋諸島動物調査報告書. 南洋新占領地視察報告（文部省專門學務局）p. 234-266〔再刻, 1927, 委任統治地域南洋群島調査資料, 第1輯（南洋廳）, p. 245-281〕

稻垣克彥 1936—一高南洋旅行隊報告, 動物採集之部. 鵬翼（第一高等學校南洋旅行隊）, p. 179-229.

Karsch, F. 1881—Arachniden und Myriopoden Mikronesiens. Berliner Entomologische Zeitschrift, Bd. 25, p. 15-16.

Krämer, A. 1929—Zoologischer Index. Thilenius' Ergebnisse der Südsee-Expedition 1908-1911, II. Ethnographie, B. Mikronesien, Bd. 3, Palau, Teilband 4, p. 331-374.

Kraepelin, K. 1901—Catalogue des Scorpions des collections du Museum l' Histoire naturelle de Paris. Bulletin du Museum l' Histoire naturelle de Paris, tome 7, p. 265-274.

Prowazek, S. von 1913—Die deutschen Marianen, Ihre Natur und Geschichte, Leipzig.

Safford, W. E. 1905—The useful plants of the Island of Guam. Contributions from the United States National Herbarium, vol. 9, p. 1-416, pls. 1-70.

Salesius, ca1906—Die Karolinen-Insel Jap, Berlin.

Schnee, P. 1904—Die Landfauna der Marshall-Inseln, nebst einigen Bemerkungen zur Fauna der Insel Nauru. Zoologische Jahrbücher, Abt. Systematik, Bd. 20, p. 387-412.

Schnee, P. 1911—Sechs an mir selbst beobachtete Skolopendrenbisse und einiges über Skorpionenstiche. Archiv für Schiff.- und Tropenhygiene, Bd. 15, p. 156-160.

Walleser, S. 1913—Palau Wörterbuch, Hongkong.

日本產全蠍目及脚鬚目*

高　島　春　雄

東京文理科大學動物學教室

はしがき

予は今年5月6日全く意外にも山階芳麿侯御派遣第四次琉球列島生物調査隊

---

* 東亞產全蠍類脚鬚類の調査（其の二）

* 本稿は東京博物學會より發行せらるべき博物學叢書の1篇として去る昭和15年12月28日完稿，新年早々右叢書の編輯者の手に渡りそれより旬日を經ずして書肆西ヶ原刊行會に屆けられたのであるが，其の後右叢書の刊行は全く停頓し完稿以來滿2年半を閲したのに未だに印刷されない。それで當初の意圖を變更し本誌に掲載することにした。會員各位の御寛恕を仰ぐ。本稿が空しく書肆の編輯室に埋もれて居る間に著者の調査は進み既に（其の三）から（其の八）までを仕上げた。玆には舊稿の儘跆甎に附することにしたから讀者は既刊の（其の一）（其の三）（其の四）（其の五）（其の六）等をも併せ覽て本稿の補遺にして頂き度い。本稿を博物學叢書の1篇として準備中江崎悌三博士は予の請を容れ卷末に附錄として添へるべき「南洋群島の蠍」を特別寄稿せられた。それも本稿と運命を共にしたので本稿掲出の號の卷頭を飾らせて頂くことになつた。永らく停頓して御迷惑をおかけした同博士に西ヶ原刊行會に代り深くお詫び申し上げねばならぬ。